

学習プログラム 事例 1

人権教育指導者養成研修会（入門編）

1 事業計画

- (1) 事業名 人権教育指導者養成研修会（入門編）
- (2) 事業の目的 社会教育における人権教育指導者を養成する
- (3) 実施主体 教育委員会
- (4) 参加対象・定員 社会教育関係団体役員，行政職員等 60名程度
- (5) 学習期間・時間（回数） 2日間 計8時間
- (6) 学習場所 公共施設

(7) 学習目標

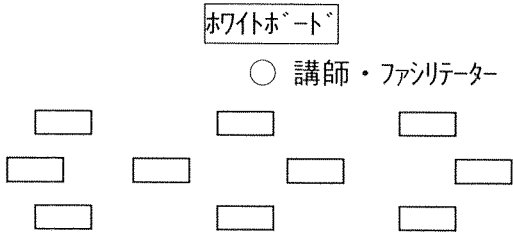
人権教育指導者として、人権の意義やその重要性についての理解を深めるとともに、人権感覚を高める参加型学習の在り方や、その有効性について知ることができる。

(8) プログラムの展開

回	学習テーマ	学習の内容と方法	学習支援者	備考
1	人権って何だろう (気付く)	(1) 人権の概念について考える。 ・ 人権についてのグループ活動を通して、その概念を考える。 (2) 人権についての基礎知識 ・ 人権をめぐる歴史と現状について講師の話聞く。	ファシリテーター 学識経験者	ブレインストーミング KJ法 講演
2	人権ワークショップ入門 (深める)	(1) ワークショップとは ・ ワークショップにおける参加型学習の方法、ねらい、注意点等について、話を聞く (2) 参加型学習の実際 ・ 参加型学習を体験する中で、自らの感性を高めるとともに、参加型の進め方を知る。	ファシリテーター ファシリテーター	講話 グループ討議 ランキング

2 学習展開計画

第1回	学習テーマ：人権って何だろう
学習目標	人権について、グループ活動、講演等を通して、その概念を理解する。

準備物 <ul style="list-style-type: none"> ・ A4用紙 1人1枚 ・ 質問用紙 1人1枚 ・ カード 1名につき20枚程度 ・ 模造紙 グループ毎に1枚 ・ 講演資料・レジュメ 1人1部 ・ 感想記入用紙 1人1枚 ・ マーカー各色 1人1本程度 	会場図 (各テーブル6名) 
---	--

流れ	時間	学習活動
導入	30分	事業の趣旨と活動を行う上での留意点の説明 アイスブレイキングとグループ作り
展開	90分	活動（アクティビティ） 人権についてのグループ活動 ①「似顔絵他己紹介」 ②「じんけんのオンパレード」
		休憩
	90分	講演 人権についての基礎知識 「人権とは何か」
ふりかえり	60分	グループ発表 まとめ

人権って何だろう？

ねらい

「人権」をどう考えればよいのか、理解を深めます。



- 1 研修の趣旨，活動の留意点の説明
- 2 アイスブレイキング じゃんけんゲーム
- 3 活動（アクティビティ）① 似顔絵^{たこ}他己紹介
 ② じんけんのオンパレード
- 4 講演 人権とは何か
- 5 グループ発表 一日の活動を振り返って

1 はじめに 参加型学習，ここに気を付けましょう

- (1) 今日の研修会の趣旨説明
- (2) 参加型学習で，参加者が留意することを説明
 - ① 参加型では，参加者全員が「参加」することが大切。参加者が主体です。
 - ② 人によって様々な意見があります。どんな意見も否定されません。尊重されます。
 - ③ 学習の中で出された意見などは，この場だけのものとし，外へ持ち出してはいけません。参加者全員に守秘義務があります。

2 アイスブレイクが じゃんけんゲーム

活動のねらい

参加者の緊張を和らげるとともに参加者同士の親近感を高め、さらに、相手の気持ちに合わせるという体験を持ちます。

準備物

特に必要ありません

活動の進め方

- 1 参加者全員が室内に散らばり、ファシリテーター1対参加者でじゃんけんをし、「負けた人」から座っていきます。
- 2 同じように、次は「勝った人」が、最後は「あいこの人以外」が座ります。
- 3 今度は参加者どうしで行います。動き回りながら相手を見つけ、お互いの自己紹介をした後じゃんけんを1回だけ行います。相手を変えながらこれを繰り返し、「あいこ」になった人からペアになって座ります。
- 4 全員が座れたら、ペアになった2人で、この活動について感じたことを話し合います。

時間や、参加者の数などに応じて、回数を調整します。

勝とうとするのと、あいこにしようとするので、どちらが難しいか、またあいこになってどう思ったかなど話し合います。



活動の
ねらい

1対1での活動を通して、人と人が
出会うプロセスを体験し、楽しく
コミュニケーションします。お互い
を大切に活動にもなります。

準備物

A4用紙1人1枚
質問用紙1人1枚
マーカー各色

活動の進め方

- 1 前の活動のペア3ペアで、6人のグループを作り、テーブルにつきます。ペアになった2人で、お互いの似顔絵を描きます。このとき、手元を見ずに、一気に描き上げるようにします。その方が、上手・下手が出にくいので、絵に抵抗がある人も描きやすくなります。

描き終わったら、相手の名前を聞き、絵の横に書き込みます。

- 2 時間を区切って（1人1分程度）お互いに、インタビューをします。項目は自由ですが、次の活動につなげる場合は、意図的に特定の項目を入れておくこともできます。後で、その人についてみなさんに紹介するので、質問用紙にメモをとるようにします。

- 3 ペアになった相手を、グループ全員に紹介します。発表は1人30秒間、時間は厳守です。

- 4 全員が終わったら、振り返りとして、グループの中で、活動の印象を話し合ってみましょう。

上手に描こうとするのではなく、印象で、一気に描くことを強調します。時間はあまり長くとらない方がよいでしょう



時間は守るようにして、一方的にならないようにします。

参加者が少ないときには、グループではなく、全員に紹介することもできます。

発表時間は、1人が長くしゃべることの無いよう、時間をきちんと区切ります。

【参考】（財）人権教育啓発推進センター「ワークショップは技より心」pp.26~27】

3 時代② じんけんのオンパレード

活動のねらい

「人権」について、自分の中にあるイメージを明らかにすることやグループでの活動を通じて、様々なとらえ方に気がきます。

準備物

カード 1人 20枚
模造紙 1グループ 1枚
マーカー 各色

活動の進め方

- 1 20枚のカードに、「人権」というキーワードから思いつくことを次々と書き出します。(ブレインストーミング)
- 2 グループ内で、1人が自分のカードから1枚のカードを選び、テーブルに出します。他の人は、自分のカードにそれと同じものがあれば、テーブルに出します。
これを1人ずつ順番に行って、最後までカードが残った人が勝ちです。
- 3 集まったカードを模造紙に貼りだし、それぞれの関連を自由に書き込んでみます。(KJ法)
できあがった模造紙を見て、気付いたことなどをグループで話し合います。
- 4 グループで話し合ったことを発表します。

この後、ゲームをすることを告げて、できるだけ多く書き出すよう促します。

ここでは、ゲーム形式で楽しく活動を進めながら、他の人がどんなことを思い浮かべたかを知ることが目的としています。ここで、勝った人、もしくは負けた人がグループの代表になってもらいます。

代表者が中心になって、みんなの意見を聞きながら、グループ分けしたり、それぞれのグループの関連を図や言葉で書き込んだりして、出てきたカードを整理していきます。

書き込むのは、別に記録者をつくってもいいでしょう。



【参考 八尾市人権協会 笠原秀己「じんけん楽習塾」】

4 講演 人権とは何か

活動のねらい

グループ活動でイメージをつかんだ「人権」について、学識経験者の講演を聞くことで、その概念を整理します。

準備物

講演資料・レジュメ 1人1部

※ 講演内容については、事業全体のねらいや、グループ活動の内容を踏まえたものにする必要があります。
よって、講師との事前の打ち合わせは、十分に行う必要があります。

5 まとめ グループ発表

活動のねらい

今日1日の活動で、気付いたこと、感想など、グループで話し合い、発表することで、「人権」について、自分なりの概念を整理します。

準備物

感想記入用紙 1人1枚

活動の進め方

- 1 各自で、今日1日の活動の中で気が付いたこと、疑問、感想など、自由に記入します。
- 2 グループ内で、1人ずつ記入した内容を話し、意見交換します。ただし、意見をまとめる必要はありません。
- 3 代表者がグループで出された意見等を全体へ発表します。

必ず、全員が思いを言えるようにします。また、できれば、お互いに質問したり、意見を求めるなど、意見交換をするようにします。

代表者以外に、発表者を決めてもかまいません。また、発表内容は、意見を集約しなくてもよいなど、発表しやすいように工夫します。

第2回	学習テーマ：人権ワークショップ入門
学習目標	人権に係る参加体験型学習についてその内容、方法等を知り、実際にワークショップを体験することで、その実践のノウハウを学ぶ。

準備物	会場図（各テーブル6名）
<ul style="list-style-type: none"> カード 1人12枚程度 「話題」のシート 1人1枚 感想記入用紙 1人1枚 	<p>ホワイトボード</p> <p>○ 講師・ファシリテーター</p>

流れ	時間	学 習 活 動
導 入	40分	事業の趣旨及びワークショップについて 活動を行う上での留意点の説明 アイスブレイキングとグループ作り
展 開	80分	活動（アクティビティ）① コミュニケーションの基本 「観る・聴く・話す」 活動（アクティビティ）② 基本対話 「私にとって大切なもの」
		休憩
	90分	活動（アクティビティ）③ グループディスカッション 「賛成ですか、反対ですか」
ふりかえり	30分	グループ発表 まとめ

人権ワークショップ° 入門

ねらい

人権についての参加体験型学習の内容，方法等を知り，実際に体験することで，その実践方法を学びます。



- 1 学習の趣旨，活動の留意点の説明
- 2 アイスブレイキング 「みんなで自己紹介」
- 3 活動（アクティビティ）① 「観る・聴く・話す」
② 「私にとって大切なもの」
- 4 活動（アクティビティ）③ 「賛成ですか，反対ですか」
- 5 グループ発表 1日の活動を振り返って

1 はじめに 参加型学習，ここに気を付けましょう

- (1) 今日の研修会の趣旨及びワークショップについての説明
- (2) 参加型学習で，参加者が留意することを説明
 - ① 参加型では，参加者全員が「参加」することが大切。参加者が主体です。
 - ② 人によって様々な意見があります。どんな意見も否定されません。尊重されます。
 - ③ 学習の中で出された意見などは，この場だけのものとし，外へ持ち出してはいけません。参加者全員に守秘義務があります。

2 アイブレイク みんなで自己紹介

活動のねらい

参加者の緊張を和らげるとともに参加者同士の親近感を高め、スムーズなコミュニケーションを促します。

準備物

特に必要ありません

活動の進め方

- 1 参加者全員が室内に散らばります。はじめの合図で、動き回りながら相手を見つけ、お互いに自己紹介をします。自己紹介の中には、必ず決まった項目を一つ入れます。(趣味、今関心を持っていることなど) 5分間で、できるだけ多くの人と会うようにします。
- 2 同じ方法で、もう1度やりますが、今度は、ファシリテーターが項目を1つ決めて、内容が同じもしくは近い人を捜して、3人のグループを作って座ります。
- 3 全員が座れたら、グループになった3人で、共通の項目について話し合います。

時間や、参加者の数などに応じて、回数を調整します。

ここでグループを作るのは、次の活動で、グループを使うためです。

また、うまく見つからない場合は、ファシリテーターが支援して、グループにします。

3人に共通した話題で、盛り上がりましょう。ここで3人のコミュニケーションを十分図っておきます。

3 アクティビティ① 観る・聴く・話す

活動のねらい

コミュニケーションする場合に必要な行動である「観る」「聴く」「話す」を1つずつ経験することで、それぞれの大切さを考えます。

準備物

特に必要ありません

活動の進め方

- 1 3人1グループで、観察者（観る）・質問者（聴く）・応答者（話す）を1人ずつ決めます。
- 2 決められた話題について、質問者は応答者に対して質問をします。応答者はそれに答えてください。答えたくないものは、答える必要はありません。
なお、質問者は、応答をしっかり聞き、最後に応答者の回答を繰り返すようにしましょう。それが、相手を認める事になるとともに、内容の確認になります。
- 3 観察者は、2人のやりとりを注意深く観察するだけにし、気が付いたこと、感想、思ったことなど2人に伝えます。
- 4 同じ方法で、役割を変えて後2回行います。話題は、同じものでもかまいませんが、変えると、またちがった面が出て良いかもしれません。
- 5 3回やり終わったら、この活動で気が付いたことなど、3人で話し合います。

後で、役割を入れ替わることを告げて、あまりこだわらずに決めてもらいます。

話題は、「今、自分が夢中になっていること」「ここ1年間で、一番うれしかったこと」「一番悲しかったこと」など、話しやすいものや人権に関する話になりやすいものなどを設定します。

観察者には、後で気づきを言ってもらうので、言葉だけではなく、しゃべり方や仕草、表情などにも注意してもらうようにします。

1人が話しすぎないように、制限時間を決めます。

どの役割が難しいと感じたか話し合ってもらいと、コミュニケーションで自分の苦手な部分が出てきます。

【参考 大阪市立住吉人権文化センター・人権ワークショップ研究会 白井俊一「促進役ステップアップ講座」】

3 アクティビティ② 私にとって大切なもの

活動のねらい

自分にとって一番大切なものを選択することで、自分自身の価値観にあらためて気づきます。

準備物

カード 1人12枚
マーカー 1人1本

活動の進め方

- 1 12枚のカードに、「地位」「財産」「友達」「親」「配偶者（恋人）」「家」「仕事」「名誉」「信念」「自分」「趣味」を書き込みます。残りの1枚は各自で自由に書いてもらいます。
- 2 カードの中から、ファシリテーターの合図で、捨てることのできるものを1枚だけ選び、握りつぶします。
これを最後の1枚が残るまで繰り返します。
(ランキング)
- 3 グループ3人で、最後にその1枚を残した理由や、この活動を通して感じたことなどを話し合います。
- 4 最後に、握りつぶしたカードを、謝りながら丁寧に広げましょう。
- 5 ファシリテーターは、このアクティビティのねらいを説明し、自分自身は何を残したのか、どこで悩んだか等、話してまとめます。

握りつぶすという行為は、本気で選択を迫るためですので、事務的に淡々と進めるのではなく、間を十分とり、本人が悩みながら選択するようにしむけます。

握りつぶすのが辛かった思いとか、どちらを残すか悩んだことなどを出し合い、3人の価値観の共通点、相違点などを話し合ってみるといいでしょう。

握りつぶすときに申し訳ないという思いを持ったカードもあることでしょう。特にそういったカードは、心を込めて広げましょう。

4 アクティビティ③ 賛成ですか、反対ですか

活動のねらい

人権に関わる5つ程度の話題についてグループの中で自分の考えを主張するとともに、人の意見を受け入れる体験をします。

準備物

「話題」シート 1人1枚

活動の進め方

- 1 前の活動でのグループを2つを合わせてで6人のグループを作ります。
- 2 「話題」シート（次ページ参照）の話題1から順番に1人ずつ賛成か、反対かまたその理由を話していきます。
- 3 1つの話題について、全員が意見を述べ終われば、次の話題に移ります。グループで、意見をまとめることはしません。
- 4 全ての話題について意見を言い終わったら、中でも特に意見が分かれた話題を1つ選び、賛成・反対に分かれて、模擬討論をします。
この時、人の意見を非難、批判することなく、自分の意見を主張するようにします。
- 5 この活動で、意見を言うあるいは聴くということについて、感じたこと、思ったことなどをグループで話し合います。
- 6 ファシリテーターは、振り返りの大切さを中心にまとめの話をすると良いでしょう。

「話題」シートは、あえて説明不足の文章にしています。参加者が自分なりの解釈や、条件を付けても良いでしょう。

意見を述べる体験が必要なので、同じ意見がすでに出ている、自分の言葉で言うようにします。

また、順番を守る、割り込みはしないといった、基本的なルールを厳守します。

相手の意見も受け入れながら、自分の意見を説明することの難しさや、大切さをお互い確認するようにします。

《「話題」シートの例》

【あなたは賛成ですか？反対ですか？】

話題1 電車を全面禁煙にするのもいいが、喫煙者専用車両があってもいいと思う。

話題2 自分が納得できない規則は守らなくてもいいと思う。

話題3 お笑い番組で、笑いをとるためには、たたいたり、バカにしたりしてもかまわない。

・
・
・
・
・

など

5 まとめ グループ発表

活動の ねらい

2回の研修会を通して気づいたこと、感想など、グループで話し合い、発表することで、コミュニケーションについて、自分なりにまとめます。

準備物

感想記入用紙 1人1枚

活動の進め方

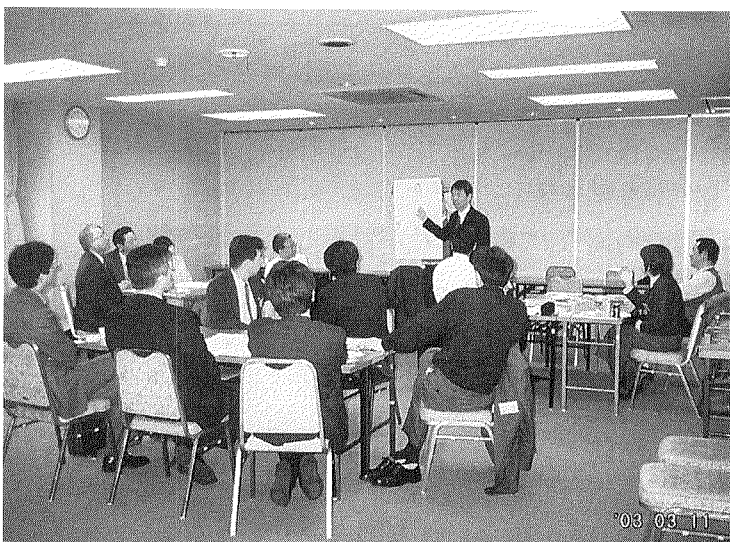
- 1 各自で、研修会全体を通して気が付いたこと、疑問、感想など、自由に記入します。
- 2 グループ内で、1人ずつ記入した内容を話し、意見交換します。ただし、意見をまとめる必要はありません。
- 3 代表者がグループで出された意見等を全体へ発表します。
- 4 ファシリテーターは、参加者の反応などから、参加型の手法、人権教育の目的などについて説明します。

必ず、全員が思いを言えるようにします。また、できれば、お互いに質問したり、意見を求めるなど、意見交換をするようにします。

代表者以外に、発表者を決めてもかまいません。また、発表内容は、意見を集約しなくてもよいなど、発表しやすいように工夫しましょう。

まとめとして、参加型は目的ではなく、より効果的な研修方法の1つであり、人権尊重の意識を高めることが人権教育の目的であることは押さえる必要があります。

また、「ふりかえり」の部分が、活動で高揚した気分を一旦沈静化して、冷静にすることや、参加型を目的化しないためにも大変重要であることなども押さえない部分です。



3 事業評価表

(1) 事業評価の視点	人権の概念について、正しく理解するとともに、ワークショップを通して、自らの感性を高めることができたか。	
(2) 評価方法	目標に基づく評価	
(3) 評価のデータを収集する対象者／技法	対象者：受講者，ファシリテーター，主催者 技 法：作品評価法，観察法，質問紙法(※)	
(4) 評価時期	活動実施時，事業の最後，終了後	
(5) 評価の対象領域	学習成果に関するもの	条件整備に関するもの
(6) 評価項目・基準	<p>目標に基づく評価（作品評価法，観察法）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自らの体験を発表できたか。 ・ 人権について，書き出すことができたか。 ・ 役割に沿って，説明することができたか。 	<p>事例研究による評価（質問紙法）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習内容に興味をもてたか。 ・ 講演は，参考になったか。 ・ ファシリテーターの説明が理解できたか。 ・ グループの人数，席の配置は適切であったか。 ・ 学習時間は適切であったか。
(7) 留意点・備考	○ 活動中に，ファシリテーター，運営者が評価する。	○ 事業の最後に，学習者にアンケートを実施し，評価する。

(※) 評価のデータを収集する技法

作品評価法…………… 学習者が学習の成果として作成した作品（文章等）を評価の手がかりにする。

観察法…………… 学習活動の場面などで学習者が習得した知識や技能，態度を観察する。

質問紙法…………… 学習者の感想や意見，行動や事実について，質問紙による調査を行う。（アンケートなど）